

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新—

「門出の季節」

“子供の未来は親で決まる”と、言われとる。子供の頃に抱く夢は儂い。自分で全てを準備できるわけじゃないから大人の理解と協力が不可欠で、それがないと夢を見ることも追いかけることもできん。簡単に芽を摘まれてしまう。

あたしの両親はやりたいことはとにかくなんでも挑戦させてくれた。(なんでもと言いつつそんなに移り気な性格でもなかったけど鍼灸の学校に行きたくて、結構な学費に躊躇してたときも母ば80歳まで生きられる時代。あんたはまだ半分。まだ40年もある。なんやちできら!”と、笑った。そしていつでも一度きりの人生やけん、やりたいことをやりなはいうて言うてくれる。両親の理解と応援は逆境に立たされたとき、心強い味方になる。

今年も門出の季節がやってきた。小さな町から大きな夢を持った子供たちが巣立っていく。それを見送るお父さん、お母さん。信じれば信じるほど、子供たちは無限の可能性の中で羽ばたく。“可愛い子には旅をさせよ”。みんな、この町にないものを見て知って触れて大きくなって、いつかこの町に帰っておいで#

(テノヒラkiku)

あいなん逸品図鑑 その⑦

逸品 図鑑 「清見」

生産者 丸永 ^{まもる} 守さん(御荘長月)



愛媛CATV
の動画はこちら
から



▲多種多様な柑橘を栽培している丸永^{まもる}守さん。清見は樹齢40年を超える木もあります。

日本で最初に育成された“タンゴール”(温州みかんとオレンジ系との交雑品種の総称)である清見を、御荘長月で40年近く生産している丸永^{まもる}守さん。昭和50年代半ばに導入したため樹齢が古く、「新しい木に比べて味が安定している」と強みを語ります。

日々の農作業は草刈りや肥料の散布が中心で、清見の出荷を始める4月下旬まで丁寧に育てます。「この辺りは冷え込むことがないし、条件は良い」と、御荘長月の自然環境は恵まれていると言います。

柑橘としての特徴は果汁が多くてジューシーなこと。「みずみずしくて糖度もある」と丸永さん。販売は個人向けや町内の道の駅などで、出荷時期には清見を求めて県外から買いに来る方もいます。「食べてもらって、あんたのところのみかんは美味しいと言ってもらうのが一番嬉しいね」と笑顔を見せました。



▲出荷時の清見は250g程度。丸永さんによると「大きくなり過ぎない方が味が良い」とのこと。